



学力UP便り



令和4年11月28日(月)

第5号

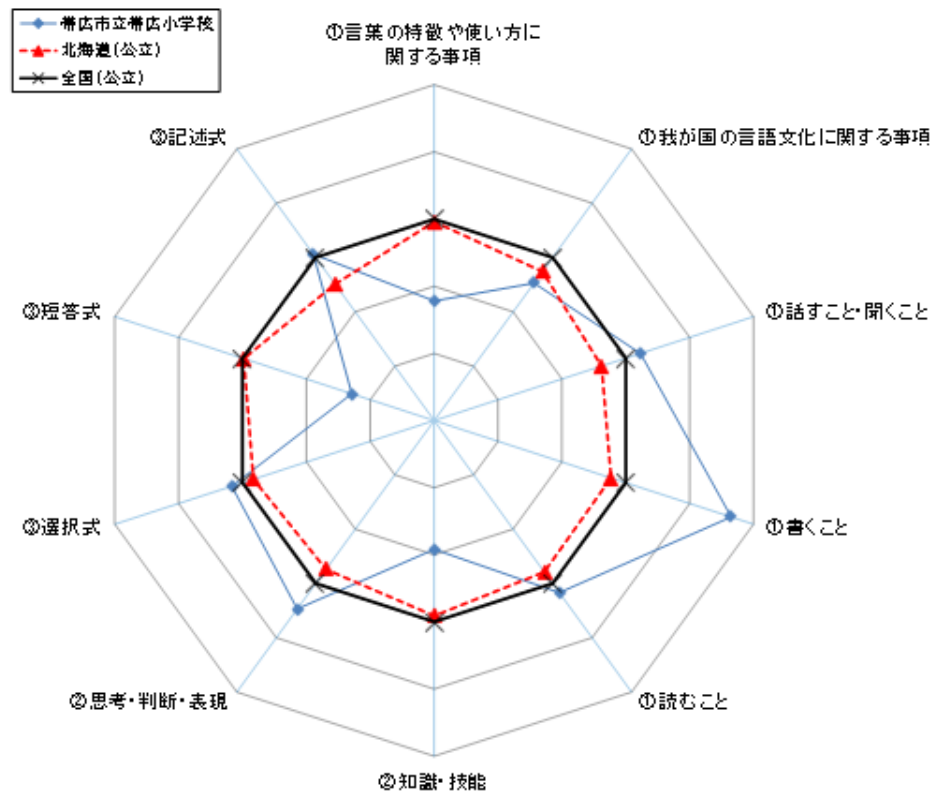
発行：教務部

全国学力・学習状況調査の結果から



4月19日に全国学力・学習状況調査を実施しました。文部科学省が、日本全国の小・中学校の最高学年（小学6年生、中学3年生）全員を対象として、学力・学習状況の実態を把握することを目的として行う学力調査です。このほど、全国平均などの結果の詳細が文部科学省から公表されました。この便りでは、公表された結果を受けて、本校の子供たちの姿の一端について紹介させていただきます。子供たちが、今後も主体的に学習を進めていくためのヒントを学校とご家庭で共有できたらと考えていますので、参考になさってください。

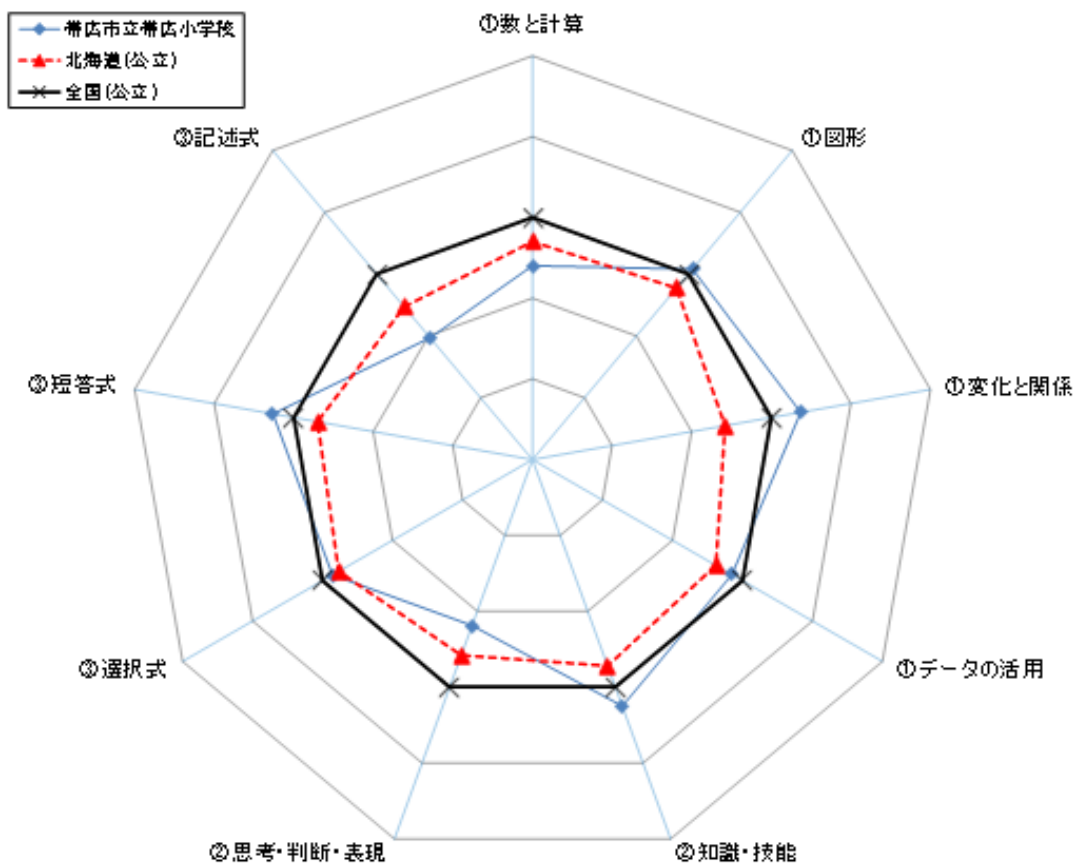
【国語】



国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域において、全国平均正答率を上回る結果となりました。特に「書くこと」の領域の「文章全体の構成や書き表し方などに注目して、文や文章を整えること」を出題の趣旨とした設問において高い正答率となりました。解答用紙からは、文字数の条件を達成するための努力の跡が見られ、話し言葉と書き言葉の違いや、理由を述べる書き方についての基礎が身に付いている様子が見られました。

一方では、「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えること」や「学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うこと」に課題が見られました。今後も、自分の考えと相手の考えを比較しながら話す活動や、意見を求められたときに自分の考えをまとめて話す活動を積極的に授業に取り入れていくことを心がけていきます。ご家庭でも、家庭学習において既習漢字の練習を継続して行わせるなど、お声掛けをお願いします。

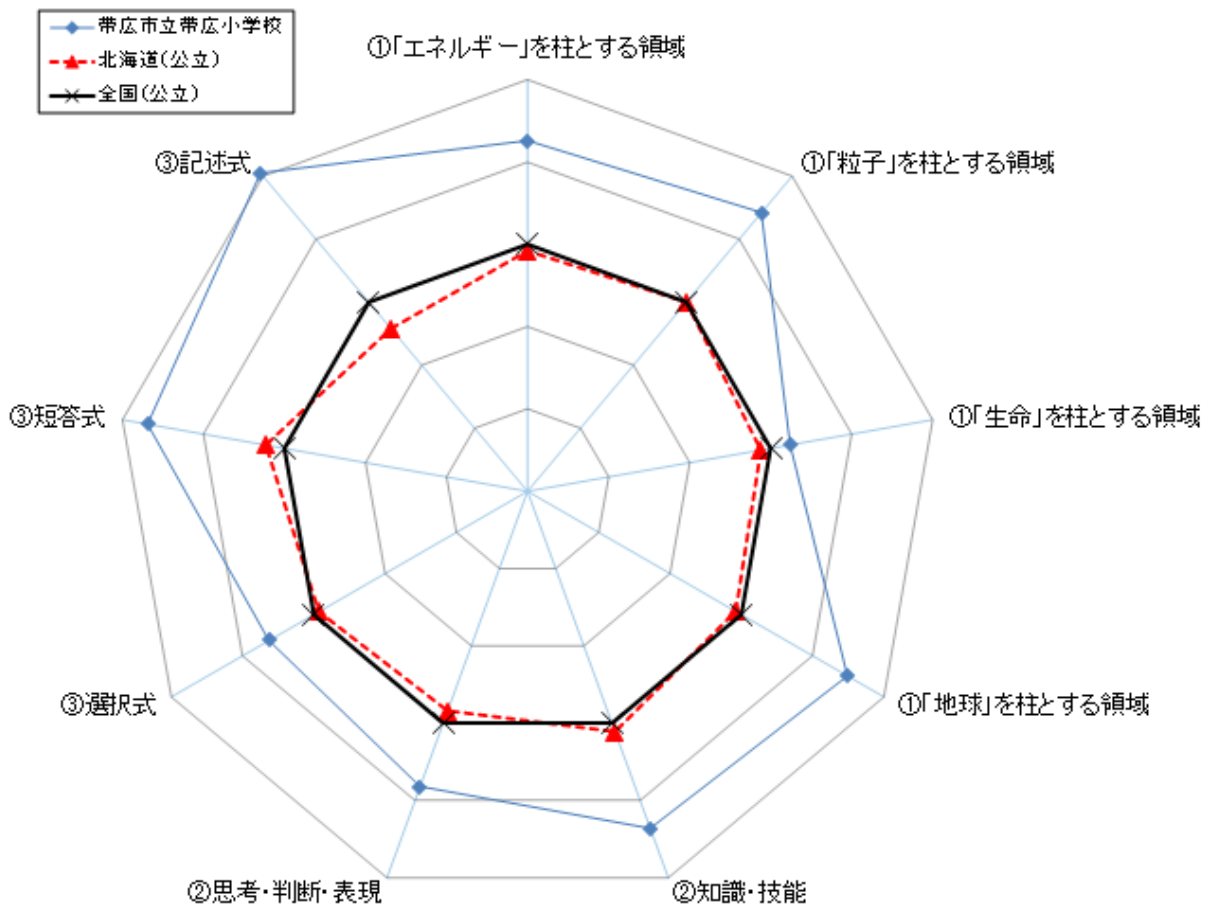
【算数】



算数は、「図形」「変化と関係」の領域において全国の平均正答率を上回る結果となりました。「図形」の領域では、プログラミングに関する問題が出題されました。「長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く」設問や、「示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ」設問についての正答率が高かったです。また「変化と関係」の領域では、「百分率で表された割合と基準量から比較量を求める」設問がよくできていました。

一方では、「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察すること」の設問に課題が見られました。また解答用紙からは、式や言葉を使って説明する問題において、式は書けているけれど言葉での説明が書けていない解答、情報量が多くなると一部分だけの情報で判断してしまい、答えが条件と合わなくなってしまう解答が見られました。算数に限らず、「読み取る」ということにじっくりと時間をかけて取り組んだり、児童の誤答を生かし、全体で考える機会を設けたりする場面を日々の授業で意図的に取り入れていきたいと考えています。また、習熟度別・少人数指導、学習規律やノート指導、学習習慣の確立を目指す宿題など、本校がこれまで行っている学力向上の取組にも引き続き取り組んでいきます。

【理科】



理科は、「エネルギー」「粒子」「地球」を柱とする領域において全国の平均正答率を5ポイント以上、また「生命」を柱とする領域でも5ポイント未滿上回る結果となりました。中でも『「地球」を柱とする領域』の正答率が高く、具体的には、「夜の気温の変化について、他者の予想をもとに、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ」問題がよくできていました。質問紙調査の結果からも、理科に対する興味・関心が全国平均と比較して高いことが分かりました。子供たちの理科への意欲的な学習態度が、基礎基本を着実に身に付けることにつながっています。

一方、「提示された情報について、複数の視点で分析したり解釈したりして自分の考えをもつこと」の設問において課題が見られました。また解答用紙からは、問題文を読み取る力が不足していることや、記述式の問題に苦手意識をもち答え方がよく分かっていない様子も見られました。

結果から考えられることを自分なりに考察してまとめたり、表に分類、整理したりすることで、新たな気付きや考えをつくりだす学習活動を授業に取り入れていきたいと考えています。

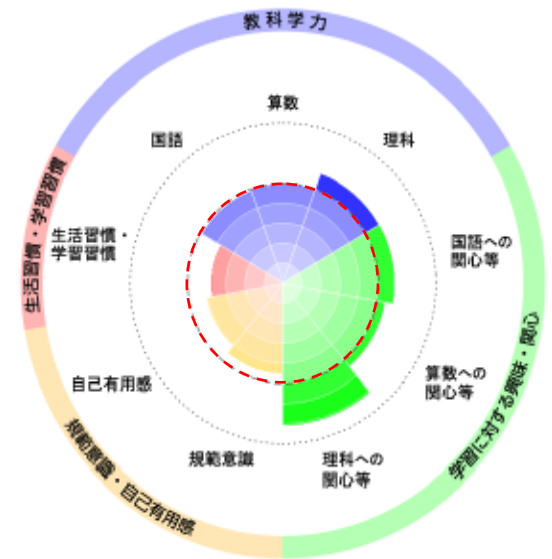
【質問紙調査】

全国学力・学習状況調査では、国語、算数、理科の学習調査のほかに、学習に対する興味・関心や、学習・生活習慣、規範意識などについてアンケート形式で答える「質問紙調査」が実施されています。

右のグラフの見方ですが、色のついている部分が、本校児童の質問紙の結果です。色の部分とおおむね重なっている、円を描いている赤の点線が全国平均値です。

学力（青い部分）で見ると、国語と算数は全国平均値とほぼ同じ、理科は全国平均値を上回っています。また、緑部分で示されている学習への興味・関心は、3教科の興味・関心が全国平均値と比較して上回っていることが分かります。黄色で示されている「規範意識・自己有用感」、赤で示された「生活・学習習慣」の項目は、全国平均を下回る結果となりました。その中からいくつか紹介します。

【児童生徒】
児童質問紙(全国基準)



学習習慣・生活習慣

- △朝食を毎日食べている。
- ▽家で自分で計画を立てて勉強している。
- ▼毎日同じくらいの時刻に起きたり寝たりしている。

「している」「あてはまる」と回答した割合の全国との比較

- ▲大きく上回っている（5ポイント以上）
- △上回っている（5ポイント未満）
- ▽下回っている（5ポイント未満）
- ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

規範意識・自己有用感

- ▲自分には、よいところがあると思う。
- ▲困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- △いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- ▽自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。
- ▼人が困っているときは、進んで助けている。
- ▼将来の夢や目標をもっている。

学習に対する興味・関心

- ▲国語・算数・理科の勉強は大切だと思う。
- ▲国語・算数・理科の授業内容はよくわかる。
- ▲国語・算数・理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- ▽国語の勉強は好きだ。
- ▼算数の勉強は好きだ。

地域や社会に関わる活動

- ▲地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。
- △自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある。
- ▽地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えたりしてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。
- ▼今住んでいる地域の行事に参加している。

以上、学力調査、質問紙調査についての結果をお示ししました。前半で触れた学力面につきましても、この調査が「全ての学年での学習内容を網羅している」という特徴をもっていることから、単に今年度の6年生のみの結果ではなく、本校児童の姿の一端であると受け止めて頂ければ幸いです。

学力向上に向けた取組

学校では・・・

- ☆「わかる楽しさ、できる楽しさ」を実感させ、**基礎・基本の確実な定着**を目指します。
- ☆学力の定着度や各種テストの**結果の分析と課題の共有化**を図り、**授業改善に役立てて**いきます。
- ☆**習熟度別・少人数指導の充実**を図ります。
- ☆**ICT機器を効果的に活用**し、子供たちの主体的な学びにつなげていきます。
- ☆朝学習では全教員が全学級に入室し、**児童の実態に応じた補充学習**を行います。
- ☆**全校統一の「学習の約束」を設定**し、落ち着いた学習環境を作ります。
- ☆**宿題の提示や、家庭学習への取組の充実**を図ります。
- ☆**「学力UP便り」を発行**し、家庭との情報の「交信」を意識した取組を推進します。

ご家庭では・・・

☆生活習慣の見直し

- ・朝食をとり、就寝時刻、起床時刻を決めて、毎日継続しましょう。

☆学習時間の確保

- ・目標は「学年×10分+10分」です。時間帯を決めて毎日継続しましょう。家庭での学習時間が長いほど、平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・子供が自ら学習計画を立てて実行することが大切です。子供が家庭学習の計画を立てて取り組む姿を見守り、応援して、子どもの自主性を育てましょう。

☆メディア利用のルール作り

- ・スマートフォンやゲームをする時間の約束を家族と一緒に決め、一日の時間を大切にすることを育てましょう。

☆心が触れ合う時間の確保

- ・がんばってできたこと、挑戦しようとしたことを認めて、ほめ、子どものやる気を育てましょう。

(参考資料) 北海道教育委員会「北海道の子どもたちの健やかな成長を願って」

本校では、子供たちの成長を願い、今後も職員が一丸となって指導を進めていきます。しかし、子供たちが健やかに育っていくためには、ご家庭の協力が欠かせません。今後とも本校の教育活動へのご理解・ご協力をお願いいたします。

*帯広市の結果も、帯広市教育委員会から公表されています。関心をおもちの方は、市のホームページなどでご覧いただけますので、ご参照ください。